

平成22年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ(防除情報第6号継続) 縞葉枯病(防除情報第6号継続) ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 並 やや少 やや少 並 並 並	並 並 やや少 やや少 並 並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	やや多 並 やや少	やや多 並 やや少
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 やや少 やや少 並	やや少 並 やや少 やや少 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 少 並	並 やや少 並
なし	黒星病(注意報第4号) ナシヒメシンクイ	やや多 並	やや多 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや多 やや少 並	やや多 やや少 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並 並 少 並 並	やや少 並 並 並 少 並 並

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.5%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が、南島原市口之津町で6月7日と13日、西海市大瀬戸町で6月9日、新上五島町有川郷、五島市で6月13日に認められた(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(過去10カ年平均発生圃場率0.2%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成22年6月9日付病害虫発生予察防除情報第6号を継続。

その後の発生状況は以下のとおりである。

(1) 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は26.8%(20.1%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10カ年の平均発生圃場率0.2%、発病株率0.0%)。

(2) 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.4頭(0.0頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度	ツマグロヨコバイ	やや少
	萎縮病	やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月中下旬のイネ科雑草地(3地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0.0%)であった。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株

当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は12.2%(28.8%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、早期水稻におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.7頭(1.4頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

ア セジロウンカは、5月22日に予察灯(諫早市)、23日にネットトラップ(諫早市)で誘殺を初確認した。トビイロウンカは、6月14日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は19.5%(29.9%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は6.6頭(0.4頭)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

ア 6月14日現在で蛍光灯採集箱及びフェロモントラップでの誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻において食害株及び幼虫の発生は認めなかった(発生を認めない)。成虫の10m²当たり虫数も認めなかった(10m²当たり成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、食害株及び幼虫の発生は認めなかった(食害株率0.3%)。成虫の10m²当たり虫数も認めなかった(0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	やや多
------	-----

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は18.6%(12.3%)、発生圃場率は66.7%(59.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、本病が発生しやすい葉裏をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。

イ 薬剤は、葉裏や下位葉にむらなくかかるように十分量を散布する。また、新葉の展開期が最も感染しやすいので、これらの葉裏に薬液が十分かかるように、葉の展開間隔にあわせて定期的に散布する。

ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

エ 子苗（ランナー）を切り離れた後、親株は早期に除去し処分する。

オ 雨よけ育苗では発生が多くなる傾向があるので注意する。

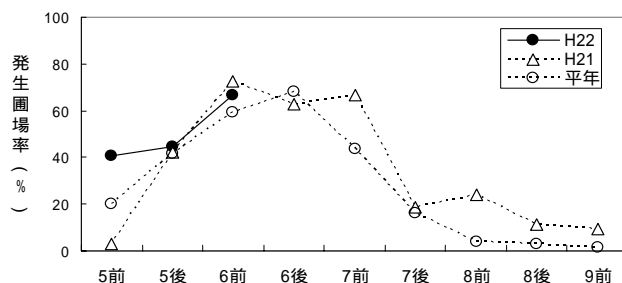


図 うどんこ病 発生圃場率の推移 (巡回調査)

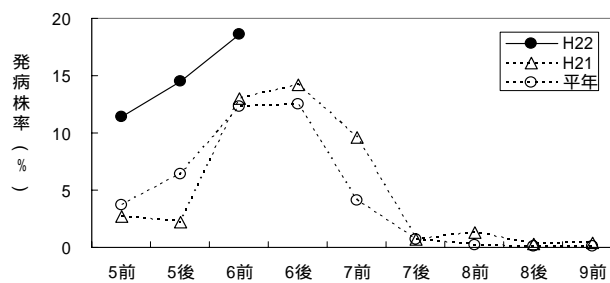


図 うどんこ病 発病株率の推移 (巡回調査)

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率1.1%、発病株率0.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は0.5%(1.9%)、発生圃場率は9.1%(21.3%)であった。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白

色板に5回×10ヶ所)は5.9頭(過去3カ年平均32.6頭)、発生圃場率は55.6%であった(過去3カ年平均81.5%)。

(3) 防除上注意すべき事項

アザミウマ類が増加しやすい時期であるので、発生に注意し、早期防除に努める。

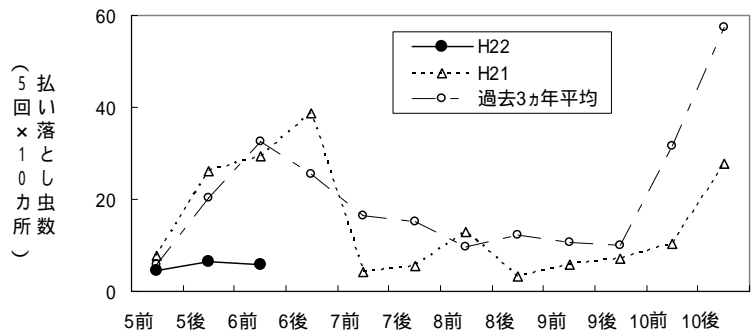


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は5.1%(9.3%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.4%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.9%(12.3%)、発生圃場率は43.6%(55.1%)であった。

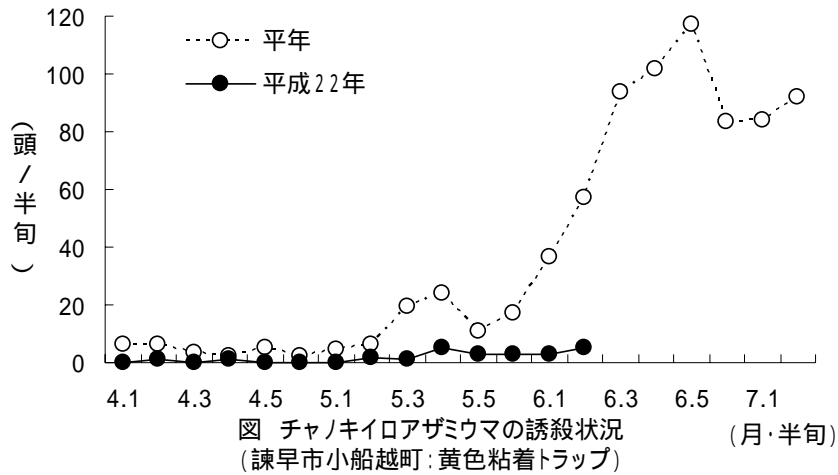
4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第2世代	6/6	6/9	6/16	6/5	6/22
" (前年)	6/4	6/6	6/12	6/1	6/17
第3世代	6/29	7/2	7/9	6/28	7/15
" (前年)	6/27	6/29	7/6	6/24	7/10
標高(m)	27	4	43	10	58

注1：各地点のアメダスデータにより平成22年6月14日時点で予測し、6月15日以降の気温データは平年値を使用した。

注2：同一地区内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なり、予測ピーク日が前後する場合がありますので注意する。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.0%、発生圃場率は2.6%であった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期(初発日の40日後)は下表のとおりと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期（有機リン剤）

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
初発日	5/6	5/8	5/6	5/5	5/8	5/7	5/10	5/10
防除適期	6/15	6/17	6/15	6/14	6/17	6/16	6/19	6/19
" (前年)	6/13	6/15	6/13	6/12	6/14	6/14	6/18	6/15
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58

注1：方法は「果樹防除適期判定システム（ヤノネカイガラムシ）」を利用した。

注2：初発日は気象庁アメダスの気温データを用いた。

注3：同一地区内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なり、予測ピーク日が前後する場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は1.8%（1.7%）、発生圃場率は60.0%（45.0%）であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率は2.3%（13.4%）、発生圃場率は80.0%（93.8%）であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%）。

イ フェロモントラップ（諫早市小船越町）の誘殺量は平年並で推移している（図）。

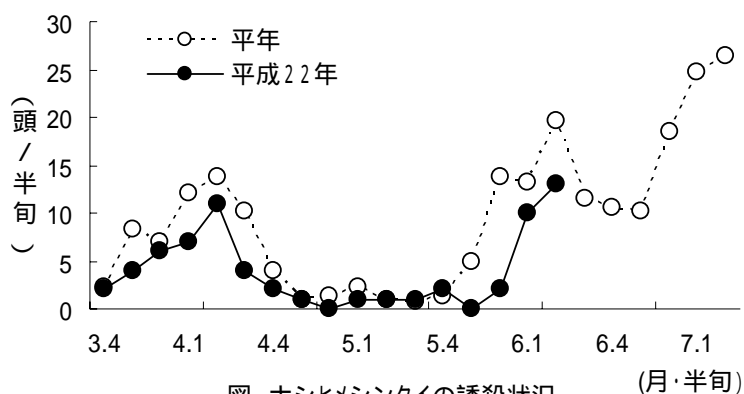


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

平成22年6月15日付病害虫発生予察注意報第4号による。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.0%)、発生圃場率は16.7%(2.1%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年並が多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 降雨後の乾燥を図るため、枝梢管理を適切に行って通風、採光を良くする。

イ 降雨が多いと多発するので、天候を見ながら防除を徹底する。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(12.5%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害果房率0.2%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(7.3%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年より少なく推移している(かんきつの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

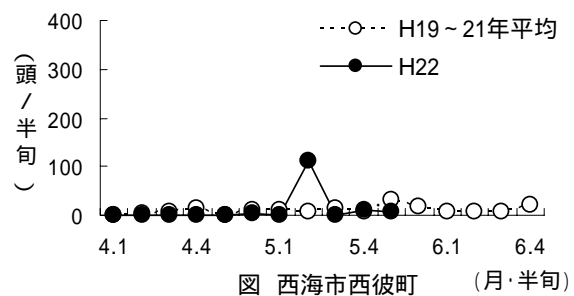
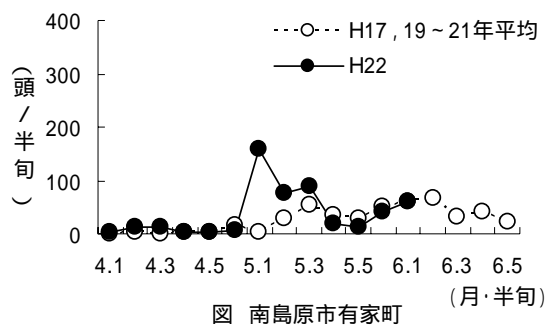
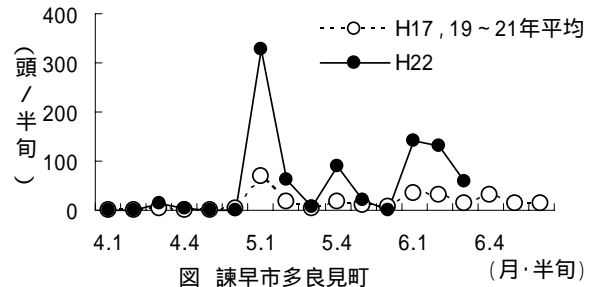
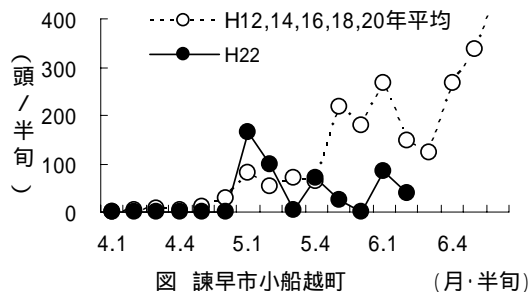
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップでの誘殺量は平年並~やや多く推移している(図)。

イ 病害虫防除員の報告によると、果樹園への飛来は平年並~やや少ない。



チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発病葉率は0.0%(1.5%)、発生圃場率は5.0%(24.2%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は20.4頭(14.5頭)、発生圃場率は95.0%(79.7%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率10.2%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

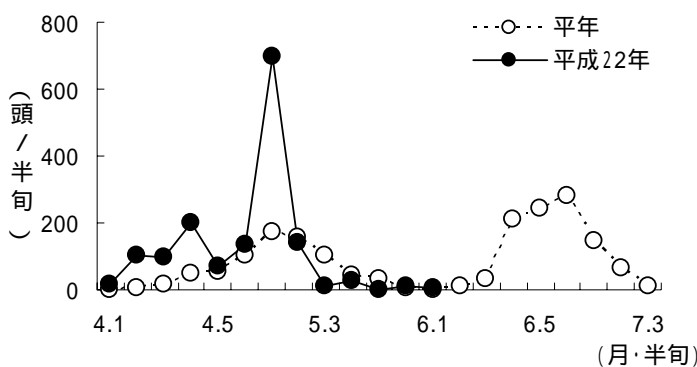


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は5.0%(7.0%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

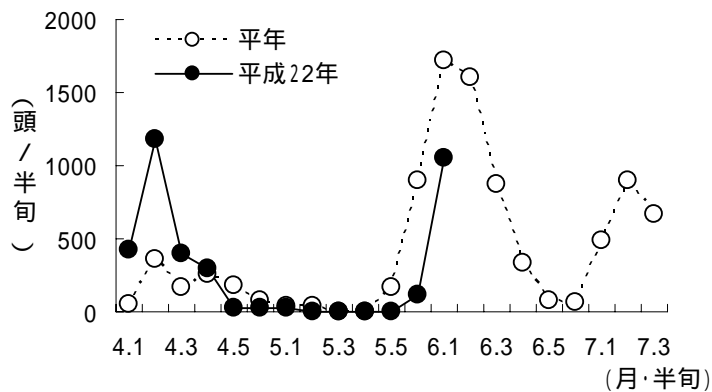


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率2.8%、発生圃場率21.3%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は2.9頭(1.9頭)、発生圃場率は45.0%(44.1%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は4.7%(6.7%)、発生圃場率は35.0%(37.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量を散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるふ化盛期予測日(第2世代)

地点名	標高	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年
東彼杵町太の原	360m	7/28	7/25	7/25	7/26
五島市上大津	77m	7/15	7/13	7/16	7/11

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により東彼杵町: 6月1日、五島市: 6月14日時点で予測した。

注2: 使用する気温データは、茶業研究室(東彼杵町)の測定値とアメダスデータ(五島市)を利用した。なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原: 5月22日、五島市上大津: 5月11日とした。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】
気象

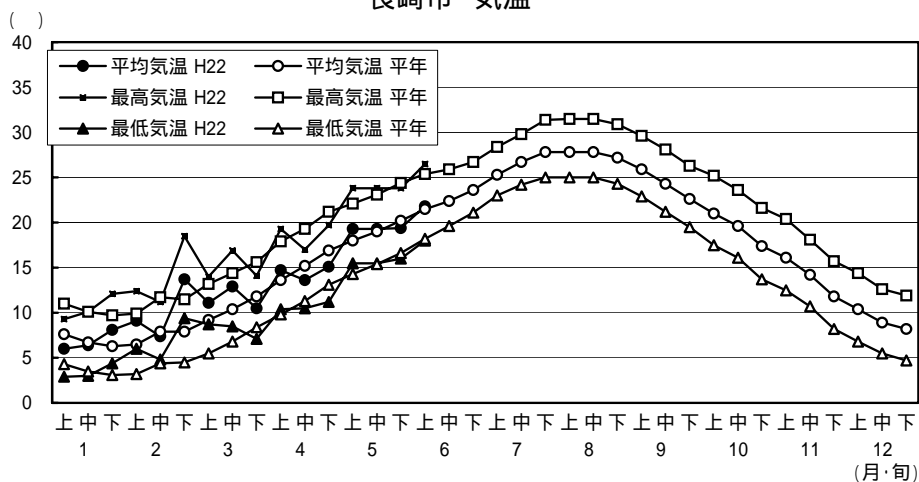
(平成22年6月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

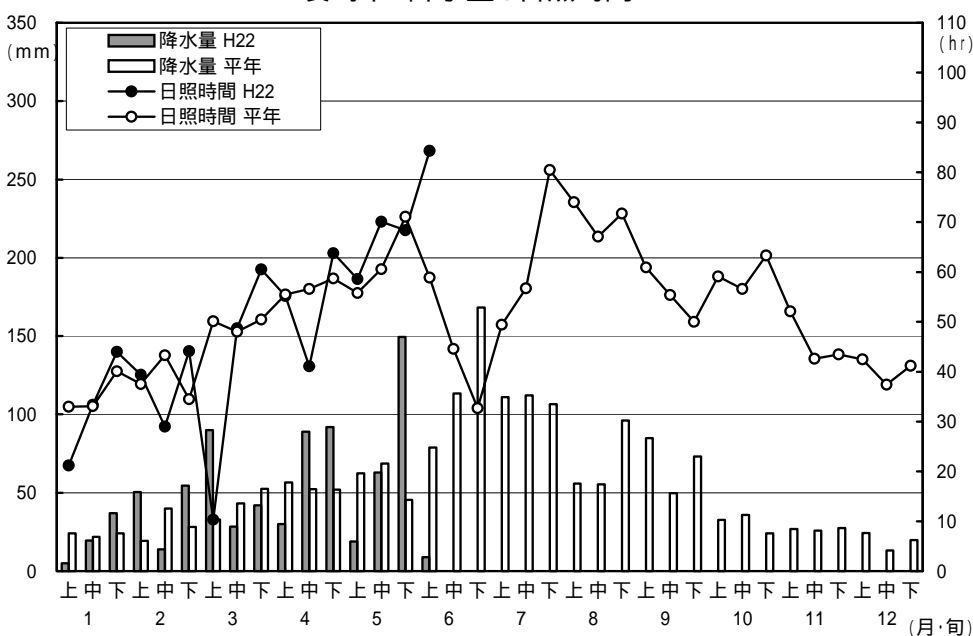
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



6月15日から8月14日までの2ヶ月間を「農薬危害防止月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027